

## ◆地域活動

# モズク養殖漁場探索(宮古地区)

宮古農林水産振興センター 吉田聡

### 1. 目的

宮古島市平良字久貝地先の特区第255号において、モズクひび建て式養殖業が行われているが、近年、同海域で潮流変化の影響と思われる海底砂の移動が起こり、藻場が砂に覆われ、養殖モズクの芽出しが行われる苗床が消失している。

安定した養殖を継続するためには、早急な苗床の確保が必要であることから、昨年度試験により良好な結果を得た海域での再現性試験を実施する。

### 2. 方法

宮古島漁協久松もずく生産部会のモズク種苗供給施設においてモズク網に種付けを行い、宮古島市平良字久貝地先の共同漁業第22号(二、へ、ト、チ、ニの各点を順次結んだ線で囲まれた区域)の試験区において、芽出し試験を行った。

試験はモズク網(1m×20m)を40枚用い、試験区2ヶ所に展張し、芽だしの確認を行った。また、管理は、宮古島漁協久松もずく生産部会の漁業者の協力の下、宮古農林水産振興センター農林水産整備課の水産業普及指導員が直接行った。

#### <試験経緯>

12月12日 No.1、No.2に試験網を展張。

12月27日 生育状況(芽出し)確認。

### 3. 結果

今回の試験では昨年度試験で良好な結果を得た、試験区No.5、6を試験区No.2、1として再試験を実施した。

試験網は同日に沖出ししたが、2週間後の確認作業ではNo.1、2ともに芽出しを確認できたものの、No.1の方が生育が良好で、見た目にも顕著な生育差が見られた。

### 4. 考察

No.1の試験区については、No.2と比べ濁りが強く、昨年度の試験においてもモズクへの影響を懸念していたが、今年度試験においてもシルト等の汚れもなく芽出しを確認することができたことから、航路側からの適度な潮流が適切な環境を維持しているものと考えられた。

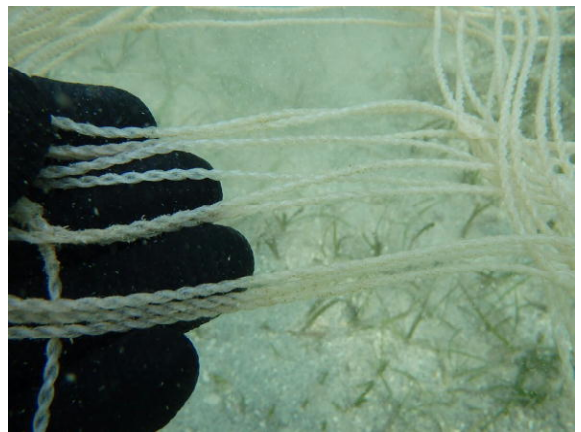
これらのことから、昨年試験結果同様にNo.5(今期No.2)から北側、No.6(今期No.1)から西側が新たな苗床として使えると判断した。



H29 苗床試験概要図(試験ポイント:黄色)



養殖網展張作業 1



No. 2 芽出し状況 (沖出し 2 週間後)



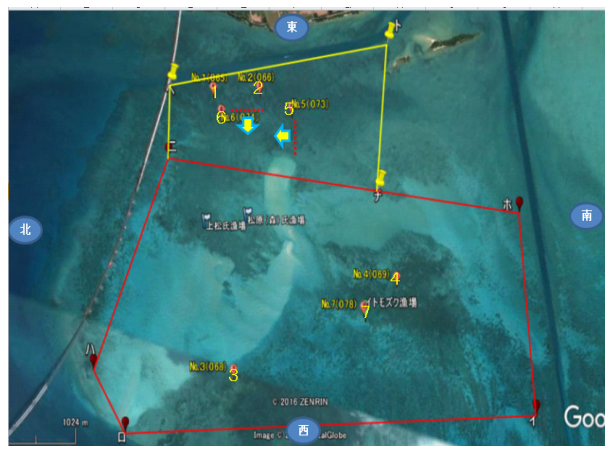
養殖網展張作業 2



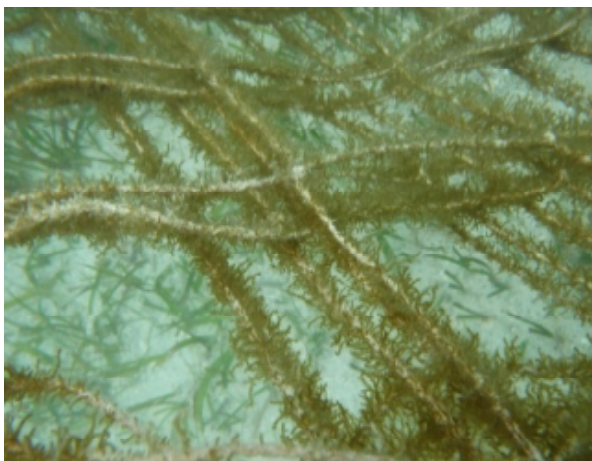
左 : No. 1、右 : No. 2



No. 1 (沖出し 2 週間後)



H28 苗床試験概要図 (赤 : 特区、黄 : 試験区)



No. 6 (H28 試験 : 沖出 1 ヶ月)



No. 5 (H28 試験 : 沖出 1 ヶ月)